

日坂同窓生シリーズ第5回

神奈川県庁県土整備局建築住宅部 部長 羽太 美孝 様

皆さん、こんにちは、1984年卒業の羽太 美孝（はぶと よしのり）です。（第35回生）

現在、地方公務員で建築の技術職として、神奈川県庁県土整備局建築住宅部に所属しています。公務員には行政職以外にも技術職の公務員もあり、県庁でも土木、電気、機械など、それぞれの専門分野を生かして業務を進めています。

まず、建築に進んだきっかけとして、祖父が関東大震災の震災復興を志して土木の学校を出ていたことと、高校2年生の時の進路相談で、絵が好きだったことから、建築系の学校に進むのが良いのでは、と勧められたことだったかと思います。

その後受験にあたり、その時のアドバイスを思い出して、日本大学理工学部を受験し、入学後、建築を学びました。

建築学科の卒業生は、ほとんどは設計事務所や建設会社に就職します。そうした中、公務員になろうと思ったのは、都市計画の講座でまちづくりを学んだことと、人と違った道を行くのも良いかな、と思ったからです。

1989年、神奈川県に採用され、現在、次のような仕事をしています。

(1) これからの住まい・まちづくりを進めるための計画策定

行政には様々な場面で、まちの将来像を示した計画を作成します。これは、市町村や民間が街づくりを行っていく際の取り組みの目標を示すためのものです。

例えば、高齢化が進む神奈川で、高齢者の方が健康で楽しく暮らすためには、地震に強く、段差の少ないバリアフリー化された住宅を増やすことが必要です。一方で孤独にならないように町中にコミュニティカフェのような人と人が集い、



新しい県民センター竣工の際に黒岩知事（左）に説明をしている羽太部長

子供から高齢者まで多くの世代の方が交流できる場を設けていくことも重要です。

このように神奈川をどんな「まち」にするのかを考えていく過程は、何もないところから、専門家から話を聞いたり、全国の事例を調べたりしてつくり上げていく、楽しい作業です。

(2) 建築物の安全を守る

神奈川県は道路の狭いところが多いのですが、建築物が面している道路の幅がきちんと守られている必要があります。地震で倒壊することがないように、柱や梁、材料が基準どおりになっているかをチェックすることも大事です。民間の建築物が安全に建てられるよう、すべての建物は「建築確認」の手続きを行って審査を行います。

(3) 公共施設の建築（県立高校、県営住宅や保健所などの県の施設の建設や維持管理）

建築物をつくるためには、施主（学校だったら教育委員会や学校の先生）の意見を聞いて、建築設計事務所に依頼します。工事費を積算して、工業者に発注を行います。

建築物は図面通りにすべて事が運ぶわけではなく、水道や電気設備も考えたうえで、何度も現場へ調整を行って仕上げていきます。天候が悪ければ工事の進行に影響がでます。私たちはその間に立って総合的な調整役となって、建築物を最終的に仕上げるお手伝いをしています。

鎌倉高校の施設の関係では、平成 4 年には国際理解ホールの建設を行い、令和 3 年から今年に実施した校舎の耐震補強工事にも携りました。

現在の E 棟の耐震補強工事では、工事中何かとご不便をお掛けしましたが、間もなく完成すると聞いています。皆さんやこれから入学してくる後輩の安全のために、どうかご理解をお願いします。

皆さんへのメッセージ

鎌高での思い出は、鎌高祭実行委員会です。想定外の事態にどうするか、人との調整をどのように進めるか、予算をどのように使うかなど、イベント運営を通じて学んだことは、その後の社会生活にとっても役に立ったと感じます。

最後に、今はネットで何でも調べられる世の中ですが、自分で気になる事柄は、実際に行って見て、関係する人の話を聞くことが非常に大事です。五感を通じて得たものは、いつまでも忘れず心に残るもので、確実に自分のものとなります。

これからの皆さんの活躍に期待します。